

「山姥」を歩く

謹啓

秋涼の候、時下ますます清祥の段、お喜び申し上げます。

平素は廣田鑑賞会に格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

第三回鑑賞会では、大曲「山姥」を舞わせて頂きます。今回は小書「白頭」ですので、後シテの姥鬘(うばかつら)が白頭の扮装に替わります。年長けた老婆の形より一歩、山の靈気を強く出した演出です。

能「山姥」は、都で評判の「百魔山姥」という名の遊女が、善光寺参りの途中、越中越後の親不知子不知の難所を避けて、上路(あげろ)の山路をとりまします。その山中で本物の山姥に出会う、という物語です。

先日、上路を見るために、新潟へ行って参りました。親不知子不知の崖壁は、想像していた以上に険しく切り立ち、延々と続くもので、昔日の旅人の苦勞がしのばれました。

ホテルのフロントで、上路に詳しい運転手さんを、とタクシーを頼んで出かけましたが、さらに現地では親切な土地の方にめぐり会い、上路に伝わる祭りの様子や、「山姥さん」が村人の仕事を手伝ったり、子どもと遊ぶなどの話を聞くことができました。天気にも恵まれ、夜には上路の山々の空に、驚くほど大きな月が皓皓と峰々を照らしていたのが印象的でした。

能「山姥」では仏教的な詞章も多く出てきますが、上路に行ってみると、深山幽谷に住む恐ろしい鬼女というよりは、人と山(山姥)の近さを感じました。山の厳しい自然のなかで、秋の一日を長閑な山里に遊びにきた山姥の姿が心に浮かびました。そんな懐の深い舞台を演じられればと思います。

お忙しい中、恐縮ではございますが、是非、金剛能楽堂にお運びいただければ幸いです。

「高覧を心よりお待ちしております。」

謹白

廣田幸稔

平成十六年 文月吉日



親不知子不知



上路の山並み



“ようこそ山姥の里・上路へ”



山姥神社にて

4/9・10/9は山姥さんのお祭
案内していただいて上原氏と



山姥の日向ぼっこ岩